

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(省令で定める基準単位数を満たす単位分科目のみ抜粋)

学校名：学校法人三幸学園 札幌医療秘書福祉& I T専門学校

(旧:学校法人三幸学園 札幌医療秘書福祉専門学校)

学科名：介護福祉科

授業科目名	単位数
生活支援技術 I	6
合計	6

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	生活支援技術Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	生活支援技術Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	介護福祉科	6	180
使用教材	最新介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ 最新介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ			出版社	中央法規

科目の基礎情報②

授業のねらい	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。				
到達目標	①「生活」とは何かを理解し、「生活」を支えるための必要な支援とは何かを理解することができる。 ②生活を支援するためには、様々な視点・アプローチがあることを学び、多様性のある利用者の生活を支援するために欠かせない柔軟な思考を育むことができる。				
評価基準	筆記テスト：60％ 実技テスト：30％ 提出物：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	介護福祉士				
関連科目	生活支援技術Ⅰ、生活支援技術Ⅱ、生活支援技術Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	大浦孝之			実務経験	○
実務内容	療養型病院11年、介護老人福祉施設等11年以上、居宅支援事業（勤務中）（介護福祉士、介護支援専門員、キャリアコンサルタント）				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	自立に向けた移動の介護	安全で的確な移動・移乗介助の技法／ボディメカニクス、安楽な体位の保持、体位交換
3	自立に向けた移動の介護	安全で的確な移動・移乗介助の技法／ボディメカニクス、安楽な体位の保持、体位交換
4	自立に向けた移動の介護	安全で的確な移動・移乗介助の技法／歩行介助
5	自立に向けた移動の介護	安全で的確な移動・移乗介助の技法／車椅子介助
6	自立に向けた身じたくの介護	整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメントと介助の技法／衣服着脱
7	自立に向けた身じたくの介護	整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメントと介助の技法／衣服着脱
8	自立に向けた身じたくの介護	整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメントと介助の技法／整容

9	自立に向けた身じたくの介護	整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメントと介助の技法／口腔の清潔
10	自立に向けた身じたくの介護	整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメントと介助の技法／口腔の清潔
11	自立に向けた排泄の介護	安全で的確な排泄の介助の技法／おむつ介助
12	自立に向けた排泄の介護	安全で的確な排泄の介助の技法／おむつ介助
13	まとめ	実技試験を実施する
14	まとめ	実技試験を実施する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う
16	自立に向けた食事の介護	安全で的確な食事介助の技法／視覚障害者への食事介助
17	自立に向けた食事の介護	安全で的確な食事介助の技法／認知症高齢者への食事介助
18	自立に向けた食事の介護	安全で的確な食事介助の技法／自助具の活用、脱水予防
19	自立に向けた排泄の介護	安全で的確な排泄の介助の技法／トイレ、ポータブルトイレ
20	自立に向けた排泄の介護	安全で的確な排泄の介助の技法／トイレ、ポータブルトイレ
21	自立に向けた排泄の介護	安全で的確な排泄の介助の技法／脊椎損傷の方への生活介助、自己導尿
22	自立に向けた排泄の介護	安全で的確な排泄の介助の技法／ストーマ造設後の生活介助
23	自立に向けた排泄の介護	安全で的確な排泄の介助の技法／尿器、差し込み便器
24	自立に向けた移動の介護	安全で的確な移動・移乗介助の技法／スライディングボード、リフト
25	自立に向けた移動の介護	安全で的確な移動・移乗介助の技法／スライディングボード、リフト
26	自立に向けた介護実践①	安全で的確な介護実践
27	自立に向けた介護実践②	安全で的確な介護実践
28	まとめ	実技試験を実施する
29	まとめ	実技試験を実施する
30	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	生活支援技術Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	生活支援技術Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	介護福祉科	6	180
使用教材	最新介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ 最新介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ			出版社	中央法規

科目の基礎情報②

授業のねらい	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。				
到達目標	①「生活」とは何かを理解し、「生活」を支えるための必要な支援とは何かを理解することができる。 ②生活を支援するためには、様々な視点・アプローチがあることを学び、多様性のある利用者の生活を支援するために欠かせない柔軟な思考を育むことができる。				
評価基準	筆記テスト：60％ 実技テスト：30％ 提出物：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	介護福祉士				
関連科目	生活支援技術Ⅰ、生活支援技術Ⅱ、生活支援技術Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	富田みゆき、福元美紀子			実務経験	○
実務内容	富田：看護師・介護支援専門員・医療的ケア教員資格保持、看護師として病院・施設勤務（看護師） 福元：高齢者施設職員として10年以上勤務（介護福祉士）				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	自立に向けた介護実践	ベッドメイキング
3	自立に向けた移動の介護	安全で的確な移動・移乗介助の技法／ベッドから車いすへの移乗
4	自立に向けた食事の介護	安全で的確な移動・移乗介助の技法／ベッドから車いすへの移乗
5	自立に向けた食事の介護	安全で的確な食事介助の技法／配膳下膳・環境設定
6	自立に向けた食事の介護	安全で的確な食事介助の技法／食事の姿勢、基本的な食事介助の方法と留意点
7	自立に向けた食事の介護	安全で的確な食事介助の技法／嚥下困難・姿勢保持困難な方への食事介助
8	自立に向けた食事の介護	安全で的確な食事介助の技法／状態に応じた調理の工夫

9	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法／入浴の外介助（誘導から着脱）
10	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法／入浴の外介助（誘導から着脱）
11	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法／入浴の外介助（浴槽出入り介助）
12	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法／入浴の外介助（浴槽出入り介助）
13	まとめ	実技試験を実施する
14	まとめ	実技試験を実施する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う
16	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法／入浴介助（個浴、シャワー浴、機械浴、洗髪）
17	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法／入浴介助（個浴、シャワー浴、機械浴、洗髪）
18	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法／入浴介助（個浴、シャワー浴、機械浴、洗髪）
19	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法／入浴介助（個浴、シャワー浴、機械浴、洗髪）
20	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法／全身清拭・陰部洗浄
21	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法／全身清拭・陰部洗浄
22	自立に向けた休息・睡眠の介護	安眠を促す介助の技法／睡眠を促すための環境づくり、生活動作・生活リズム
23	自立に向けた休息・睡眠の介護	安眠を促す介助の技法／安眠を促す介助
24	自立に向けた休息・睡眠の介護	安眠を促す介助の技法／睡眠時無呼吸症候群、内部障害の方への睡眠援助
25	自立に向けた休息・睡眠の介護	安眠を促す介助の技法／認知症の方への睡眠援助
26	自立に向けた介護実践	安全で的確な介護実践
27	自立に向けた介護実践	安全で的確な介護実践
28	まとめ	実技試験を実施する
29	まとめ	実技試験を実施する
30	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	生活支援技術Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	生活支援技術Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	介護福祉科	6	180
使用教材	最新介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ 最新介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ			出版社	中央法規

科目の基礎情報②

授業のねらい	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。				
到達目標	①「生活」とは何かを理解し、「生活」を支えるための必要な支援とは何かを理解することができる。 ②生活を支援するためには、様々な視点・アプローチがあることを学び、多様性のある利用者の生活を支援するために欠かせない柔軟な思考を育むことができる。				
評価基準	筆記テスト：60％ 実技テスト：30％ 提出物：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者				
関連資格	介護福祉士				
関連科目	生活支援技術Ⅰ、生活支援技術Ⅱ、生活支援技術Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	富田 みゆき			実務経験	○
実務内容	看護師・介護支援専門員・医療的ケア教員資格保持、看護師として病院・施設勤務（看護師）				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	自立に向けた介護実践	ベッドメイキング
3	自立に向けた移動の介護	移動の意義と目的・安全で気兼ねなく動けることを支える介護の工夫
4	自立に向けた移動の介護	立ち上がりのメカニズムと想定される形態別介護技術
5	自立に向けた移動の介護	移動に関する利用者のアセスメント／他の職種と協働
6	自立に向けた食事の介護	移動の意義と目的・「おいしく食べる」ことを支える介護の工夫
7	自立に向けた食事の介護	摂食のメカニズムと想定される形態別介護技術
8	自立に向けた食事の介護	食事に関する利用者のアセスメント／他の職種と協働
9	自立に向けた身じたくの介護	身支度の意義と目的・生活習慣と装いの楽しみを支える介護の工夫

10	自立に向けた身じたくの介護	着替えに関する身体のメカニズムと想定される形態別介護技術
11	自立に向けた身じたくの介護	身じたくに関する利用者のアセスメント／他の職種の役割と協働
12	学びの振り返り	知識の習得状況の確認
13	国家試験対策	知識の習得状況の確認
14	まとめ	筆記試験を実施する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う
16	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	入浴の意義と目的・爽快感・安楽を支える介護の工夫
17	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	内部障害やその他障害、症状など、想定される形態別介護技術
18	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	入浴・清潔保持に関する利用者のアセスメント／他の職種の役割と協働
19	自立に向けた排泄の介護	排泄の意義と目的・気持ちよい排泄を支える介護の工夫
20	自立に向けた排泄の介護	排泄に関する身体のメカニズムと想定される形態別介護技術
21	自立に向けた排泄の介護	排泄に関する利用者のアセスメント／他の職種の役割と協働
22	自立に向けた休息・睡眠の介護	睡眠の意義と目的・安眠のための介護の工夫
23	自立に向けた休息・睡眠の介護	睡眠に関する身体のメカニズムと想定される形態別介護技術
24	自立に向けた休息・睡眠の介護	排泄に関する利用者のアセスメント／他の職種の役割と協働
25	自立に向けた休息・睡眠の介護	夜間巡回時の対応と眠りスキンの活用
26	自立に向けた休息・睡眠の介護	夜間巡回時の対応と眠りスキンの活用
27	学びの振り返り	知識の習得状況の確認
28	国家試験対策	知識の習得状況の確認
29	まとめ	筆記試験を実施する
30	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う